

地元の資源を授業にどう取り上げるか ～日本一の湖山池と社会科学習～

村山明生

鳥取大学附属中学校 社会科

E-mail: murayama524@fuzoku.tottori-u.ac.jp

Akio MURAYAMA (Tottori University Junior High School) : **How we make use of local resources to classes? — Lake Koyama as an educational material of social science study.**

要旨 — 歴史学習の導入期において、歴史のとらえ方に関する学習をすることは必須である。身近な湖山池の形成やその時期について、湖山長者の民話や天神山城がつくられた背景と関連させて探究していく活動を通して、歴史を学ぶ楽しさや現在とのつながりを意識させ、歴史を学習する意義である過去と現在の時空を越えたつながりを感じさせたい。

キーワード — 歴史のとらえ方、湖山池、琵琶湖、湖山長者(民話)、天神山城跡、日吉神社

Abstract — It is fundamental to learn various ways of apprehension of history in the introductory stage of history learning. I tried to introduce history of Lake Koyama (Tottori City) which has origin as a lagoon probably formed in late 16th century by the growth of sand spit and sand dunes at the northern side of the lake, as materials for such activities in the classes for the 1st grade students in our junior high school. To make classes more attractive and enjoyable for most of the students, I also employed a folk tale called “Koyama-choja” (= Koyama millionaire) and the Ruins of Tenjin-yama Castle whose rise and fall are inseparable from the history of Lake Koyama. Goals of the classes were to raise students’ interest in local history and to get inspiration and understanding for the fact that human lives in the past and in the present are intimately connected one another across space and time through activities in those classes. In this report, I will describe process of the classes and results obtained from the activities.

Key words — ways of historical apprehension, Lake Koyama, Lake Biwa, folk tale Koyama-choja (= Koyama millionaire), Ruins of Tenjin-yama Castle, Hie Shrine

1. はじめに

歴史学習の導入として、「なぜ歴史を学ぶのか」という問いに答える必要が我々にはある。学ぶ必要がなければ歴史の学習は単なる趣味や自己満足でしかないからだ。自国の歴史を学ぶ意義を伝え、歴史を学ぶ意欲を高める学習は必要不可欠である。

また、中学校においては、小学校での学習を踏まえ、扱う内容や活動の仕方を工夫して、「時代の区分やその移り変わり」に気づかせるようにしなければならない。

2. 歴史のとらえ方

区分	時代	キーワード
(原始)	縄文→弥生→古墳→	ロマン
古代	飛鳥→奈良→平安	
中世	鎌倉→南北朝→室町	原形
近世	安土桃山→江戸	ルーツ・起源
近代	明治→大正→昭和	先人

古代は、現代人の想像を遙かに超越した世界である。あまりに古く日本においては文字すらなく記録がないので人々の想像力を駆り立てる。ゆえに古代の歴史にロマンを感じるのである。漢字が伝わって以降、日本独特の仮名文字が考えられたことは誰もが知るところである。平安時代前期の延喜式は、古代史の研究に不可欠な文献だといわれている。

中世は、惣村の成立が示すとおり、今日の村町制の原形ができあがった時期である。民衆の自治的な組織が、高度経済成長以前の村落と都市の基礎となっているといわれている。一遍上人絵伝などの絵巻物や各地の絵図もその当時のくらしを想像するのに重要な史料である。

近世は、古文書・絵巻物そして書物や浮世絵が出版されていく。今日の私たちのルーツや起源を知る手がかりは各地に多数残されている。博物館・歴史資料館・公文書館など多くの文献や史料を目にすることができる。

近代はもちろん、3世代ほど前の曾又は曾曾の時代である。今日の自分がいるのもまさにその先人の方々のおかげである。写真や映像など文字以外の媒体でその瞬間の記録が鮮明に蘇る。

時代のイメージをもつ手がかり

古 代	中 世	近 世	近代
想像図	絵巻物・絵図		写真・カラー写真・映像 浮世絵／風刺画
中国の書物 古事記・日本書紀 延喜式	絵詞 石碑	書状 明文化されたもの 書物	憲法 条約 書物
神話・伝説・伝承・民話・語り			

(村山作成)

人はどのように歴史を捉えるのだろうか。見たことも聞いたこともなければ何かを手がかりにそのイメージを抱くことが歴史をとらえる第一歩となる。書籍や教科書の記述からイメージをいただくより、遺構や遺物などの本物に接する以外は、写真や映像など視覚的な情報が大きな手がかりとなる。

歴史をとらえるということは、時代のイメージを抱き、地形や変遷から時代の経過を読み解き、頭の中でCG化する作業なのではないのだろうか。

3. 授業実践

(1) 教師と教材

2010年湖山池を含む山陰海岸ジオパークが世界ジオパークネットワークに認定された。ジオパークのエリア内は、古くから人々の生活の場となっていて、多彩な自然を背景とした人々の文化・歴史を学ぶこともできる。ジオパークでは、とくに、地域のジオツーリズムを通じた自然遺産の保全と地域活性化につながる活動が期待されている。

鳥取砂丘ジオエリアにおいて、湖山池の形成過程とそれとともなう時代ごとのくらしの変遷はたいへん興味深い。原始、湖山池が入海だったころは、青島遺跡や桂見遺跡の出土品から縄文弥生人のくらしぶりが想像できるし、布勢古墳や大熊段古墳・三浦古墳などからは何らかの豪族が存在していたことや大和政権との関わりも考えられている。

古代・中世における日本海側の水上交通の発達に関する教科書の記述は少なく盲点となっているように思われるが、想像以上に日本海にお

ける海上交通は発達していたようである。山名氏が天神山城を因幡支配の拠点とした理由は湖山池が入海だったことと関連していることはまちがいないと思われる。

(2) 子どもと教師

入学してすぐ、学年遠足で湖山池一周遠足を行ったり、フィールドワークをしたりするなど湖山池を教材として捉え、自分の足で歩いて、高低差や地形や痕跡を意識させてきた。とくに、湖山池一周遠足では、班ごとに「湖山池クイズ」を出題し、次のような設問を与えた。

- ①湖山池は東京ドーム何個分でしょう。
- ②湖山池の最大水深は何メートルでしょう。
- ③湖山池には何個島があるでしょう。
- ④湖山池は、昔、日本海とつながり海上交通が発達していたと言われています。(湖山池北岸は海だったのです。)砂がたい積して湖山池ができあがったのはいつ頃の時代でしょうか。
- ⑤湖山長者の民話を簡潔に説明しなさい。
- ⑥湖山池に棲息している魚を5種類挙げなさい。

解答 ①(150個分) ②(6m) ③(5個) ④については、遠足後明らかにしていない。社会科の授業で扱っていくということで保留にしておいた。ちなみに、地形地質の専門家の調査では湖山池北部に砂丘が発達して日本海から切り離されたのは、16世紀末であると結論づけられている。⑤(湖山長者が広大な田んぼを所有していた。ある年、田植えが一日で終わりそうにないので、扇で太陽を戻し、何とか無事一日で田植えを終えた。翌朝、田をみると大きな湖となっていたという話。) ⑥(フナ・シラウオ・ハゼ・スズキ・ナマズ・ウグイ・ワカサギなど。ただし、2012年の塩分導入以後、ほとんどいなくなった魚種もある。)

(3) 子どもと教材

鳥取大学附属小中学校の敷地は、湖山第1・第2遺跡に相当し、原始古代より人々が定住し発展してきた場所である。登下校時も大学構内の古墳の横を通ったり、教室からは湖山池や天神山城跡など毎日目にしている。地形や人々の

くらしの変遷を想像するのは楽しいだろうし、昔と今の時空を超えたつながりに感動すら覚えるにちがいない。

4. 単元の目標

○湖山池周辺の歴史や地形について調べたり考えたりする活動を通して、日本の歴史の大きな流れや時代の特色に対する関心を高め、意欲的に学習している。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

○小学校の学習を活かしながら、湖山池周辺の地形や実際のくらしの変遷について、イメージを持ちながら捉え、日本の歴史の大きな流れや時代の特色を考察し、その過程や結果を適切に表現している。

【社会的な思考・判断・表現】

○湖山池のおおまかな形や周辺図などノートに描いたり、紙芝居に表現することができる。

【資料活用の技能】

○時代の大きな移り変わりに気付くとともに、年代の表し方や時代区分について理解している。

【社会的事象への知識・理解】

5. 学習計画の具体（全6時間）

【1時間目】めあて：原始・古代の湖山池周辺のくらしをイメージすることができる。

学習活動	発問と予想される生徒の反応
1. グーグルマップで湖山池を上空から見る	※事前にフィールドワークをしておく。
2. 青島遺跡のくらしを想像する	○縄文人は何を食べていたのだろう。(弥生時代はどうだろう?) ・魚 ・イノシシ ・ドングリ(米?)
3. 桂見遺跡で出土した丸木舟について知る	○丸木舟が一番多く発見されたのはどこだろう。(琵琶湖)
4. 湖山池周辺の古墳について知る	○湖山池周辺の古墳は何関係の豪族だろう。(水上交易などに関係した豪族)
・フィールドワークの時に見た看板に「水上交易」というキーワードがあったことを思い出させる。	

【2時間目】めあて：湖山長者の話がいつ頃つくられた話か考えることができる。

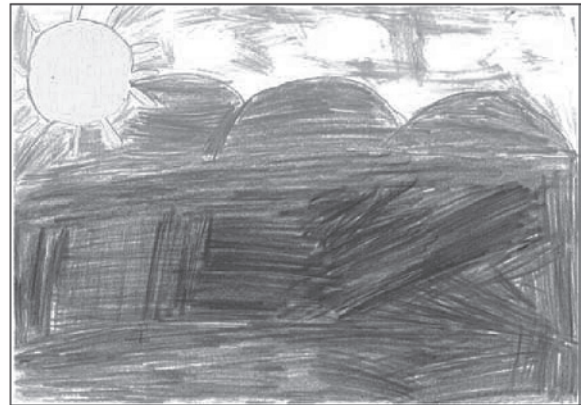
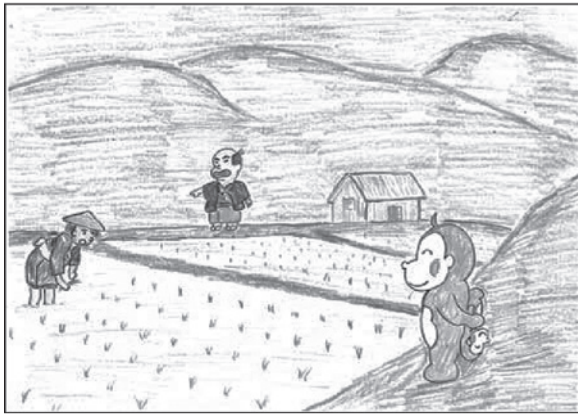
学習活動	発問と予想される 生徒の反応
1.時代区分について 知る	○この話がいつごろつくられた話か考えながら紙芝居をつくろう。 ○湖山長者の話がつくられたのはいつ頃だろう。
2.湖山長者の紙芝居 をつくろう	
3.湖山長者の話がつく られたのはいつ ごろか考える	
<p>・ 原始は入海だったことを再確認し、この段階では、古代・中世・近世・近代のいずれかという程度にしておく。</p> <p>※紙芝居は一人1場面を班で分担する。(宿題)</p>	

【3時間目】めあて：湖山池がどのように形成されたのか理解することができる。

学習活動	発問と予想される生徒の反応
1. 湖山池の紹介文をつくろう	○東郷池のでき方を参考にして湖山池の紹介文をつくろう。
2. 資料から海岸砂丘の形成のしくみを知る	○1900(明治33)年時点の砂丘地の分布からどのようなことが言えるだろう。 (湖山池北岸は入海だったが、砂がたい積して現在のようなになった)
3. 湖山池ができたのはいつか再度考える	○湖山長者の話がつくられたのはいつ頃だろう。
・湖山池の形成期に再度興味を持たせ、次時につなげる。	



(日本海新聞より引用)



文献

『地形と海路から解き明かす！「あなたの知らない古代史」』（辰巳出版）

湖山の歴史と文化「霞の里」（湖山地区自治会・湖山地区公民館）

冊子「湖山池をめぐる歴史的環境」（第9回鳥取大学と鳥取県の合同シンポジウム・とっとり県民カレッジ連携講座）



小玉芳敬・永松大・高田健一（2017年）『鳥取砂丘学』（古今書院）

鶴崎展巨・淀江賢一郎（2015年）鳥取県・島根県の動物相に関する文献目録 第7集 pp.53-54

星見清晴（2009年）鳥取地学会誌 第13号 pp.23-36



網野善彦『続・日本の歴史をよみなおす』

網野善彦・石井進『中世の風景を読む4 日本交通の展開』

『鳥取県の歴史』（山川出版社）

『鳥取市歴史博物館錦絵集』（鳥取市歴史博物館やまびこ館）

6. 本時の学習について

(1) 本時目標

湖山池周辺の地形や歴史の変遷について、疑問に思ったり考えたことを表現する活動を通して、歴史を学ぶ意欲を高めさせる。

(2) 本時の展開

学習活動	○主な発問や指示 ・予想される生徒の反応	・留意点 ◎評価【観点】
1. 湖山池の紹介をする ①湖山長者の民話 ②湖山池紹介文 2. 湖山池に関する学習のまとめをする	○湖山池の民話や成り立ちについて紹介してみよう。 ○湖山池周辺の学習で疑問に思ったことや考えたことを発表してみよう。 補助発問 *天神山は古墳ではないだろうか。 ・古墳ではない ・古墳かもしれない *天神山に城がつくられたとき湖山池は湾だったのか池だったのか ・湖山池は湾で交易がさかんだったのではないか ・城へ物資を運ぶのに便利なので湾だったのではないか。 *鳥取城へ移ったときは湖山池はどうだったのか。 ・まだ湾だったかも ・湖山池になったから天神山は使われなくなったのかもしれない ・鳥取城の方がよかった ※山名豊国が鳥取城で再スタートを切るが・・・秀吉の第一次因幡攻めに合い山名氏が降伏。降伏したことに不満をもった家臣が、豊国を追放したため、鳥取城は毛利氏の手に入。新たな城主として吉川経家があとを託される。	・事前に作らせた紙芝居や紹介文を何名かに発表させる。 ・グーグルマップやパワーポイントの映像を提示する。 ・湖山池を中心にウェビングの形で板書していく。 ・なるべく全員が発表できるようにする。 ・生徒からの意見が少ない場合、教師が補助発問をしていく。 ・周辺の大型の古墳はすべて丘陵地の上につくられているのでおそらく古墳ではないだろう。 ・築城は 1466 年山名勝豊によると伝えられているが、勝豊は 1452 年に没しているから正しくない。もともとは岩美の二上山に城があった。 ・1573 年豊国が鳥取城に移るまで約 100 年間因幡国の政治の中心だったことになることも押さえる。(当時、鳥取城もあり、天神山城が本城に対して鳥取城は出城ということになる。) ・当初は、常時京都に住み在国することのなかった守護も 1467 年応仁の乱以降、在地性を強めたことも押さえておく。 (1562 年～ 63 年にかけて天神山城は配下の武田氏に攻められ攻略されたという。) ・まとめとして、近江日吉大社と日吉神社の関係について説明する。
3. 自己評価カードの記入		・次回から古代の学習の続きをしていくことを予告する。 【関心意欲】(自己評価カード)

7. 参考資料

古代における湖山池に関する資料

日吉神社の大津神人と言われる人びとは、「借上」と言われる金融業者であり、(中略)北陸諸国から瀬戸内海を経由して北九州にいたる非常に広いネットワークを持っていました。(中略)

ですからこの時期の国家の徴税は、こうした河海の交通の発達を前提にした金融、商業のネットワークの力ではじめて実現されており、それは原初的な手形の流通によって可能になっていることができます。この時期の経済はすでにそこまで発展していると考えなくてはなりません。

(中略)

十一世紀には廻船のルート、廻船人の組織が日本列島全域にわたってできあがっていたと考えてよいと思っています。とくに日本海の海上交通は非常に活発で、北からの船は敦賀に入って、短い陸の道をこえて琵琶湖に入り、湖を通過して大津に着き、大津から陸の道をこえて京都に入ります。また、山陰から来た船は若狭の小浜に入り、これも琵琶湖の大津に出て、京都に入る。このルートは、瀬戸内海から北九州に行く日本列島を横断する水の大動脈にもつながるわけです。

このころになると、中国大陸からわたくる「唐船」は、北九州はもちろんたくさん来ていますが、北陸の敦賀、小浜、能登などにも入っており、こうした北陸に入った「唐船」の舶載した陶磁器や唐物は、この琵琶湖経由のルートを通して都に入ったのです。もちろん、北九州から瀬戸内海を通過して都に入ってくる海の道が、もっとも太い大動脈だったことは間違いありませんが、中国大陸につながる海のルートはさまざまであったことを考えておく必要があります。

続・日本の歴史をよみなおす』(網野善彦)より

中世における湖山池に関する資料

北陸・山陰の日本海沿岸地域を「裏日本」といって「遅れた後進地域」と見る見方が生まれたのは、近代以後、東京に首都が置かれ、交通体系が陸上交通を基本とする国家の政策が徹底してからで、たかだかここ百年ほどでしかない。

明治初年から江戸時代以前に遡れば、日本海の海辺の状況はそれとは大きく異なっていた。古い時代からこの海域は、専ら漁撈・製塩・海運等に携わり、浦、津、泊に根拠を置く「海人」といわれた海民の活発な活動舞台であった。そしてどのように遅く見ても十三世紀後半以降には、多くの大小の船が恒常的に往来する活発な海上交通を背景に、海民の中からは専門の商人、廻船人、問丸などになる人々が現れ、浦、津、泊が反映した港町一都市に発達していく場合も少なくなかった。またこの海の道は西は朝鮮半島、中国大陸、北は北海道から北東アジアと結びついており、「唐船」「南蛮船」の姿も頻繁に見られたのである。「裏日本」どころか、江戸時代以前の北陸・山陰は日本列島の表玄関の役割を果たしていたといわなくてはならない。

『中世の風景を読む 4 日本交通の展開』(網野善彦・石井進)より

8. その他

鳥取大学附属特別支援学校との連携授業を実施した。(平成 29 年 11 月 15 日)テーマは、「日本一の湖山池を学ぼう」。

附属中学校と同様、秋の遠足において「湖山池クイズ」を実施していただいた。その答え合わせを兼ねて、湖山池の古代から現在までのおおまかな変遷や湖山長者の民話や天神山城があったことなど紹介した。

身近な地域の歴史や湖山池の存在の大きさを改めて共有する時間となった。



